

NICUにおけるMRSA対策

名古屋第二赤十字病院

感染リスクマネージャー 田村 秀代

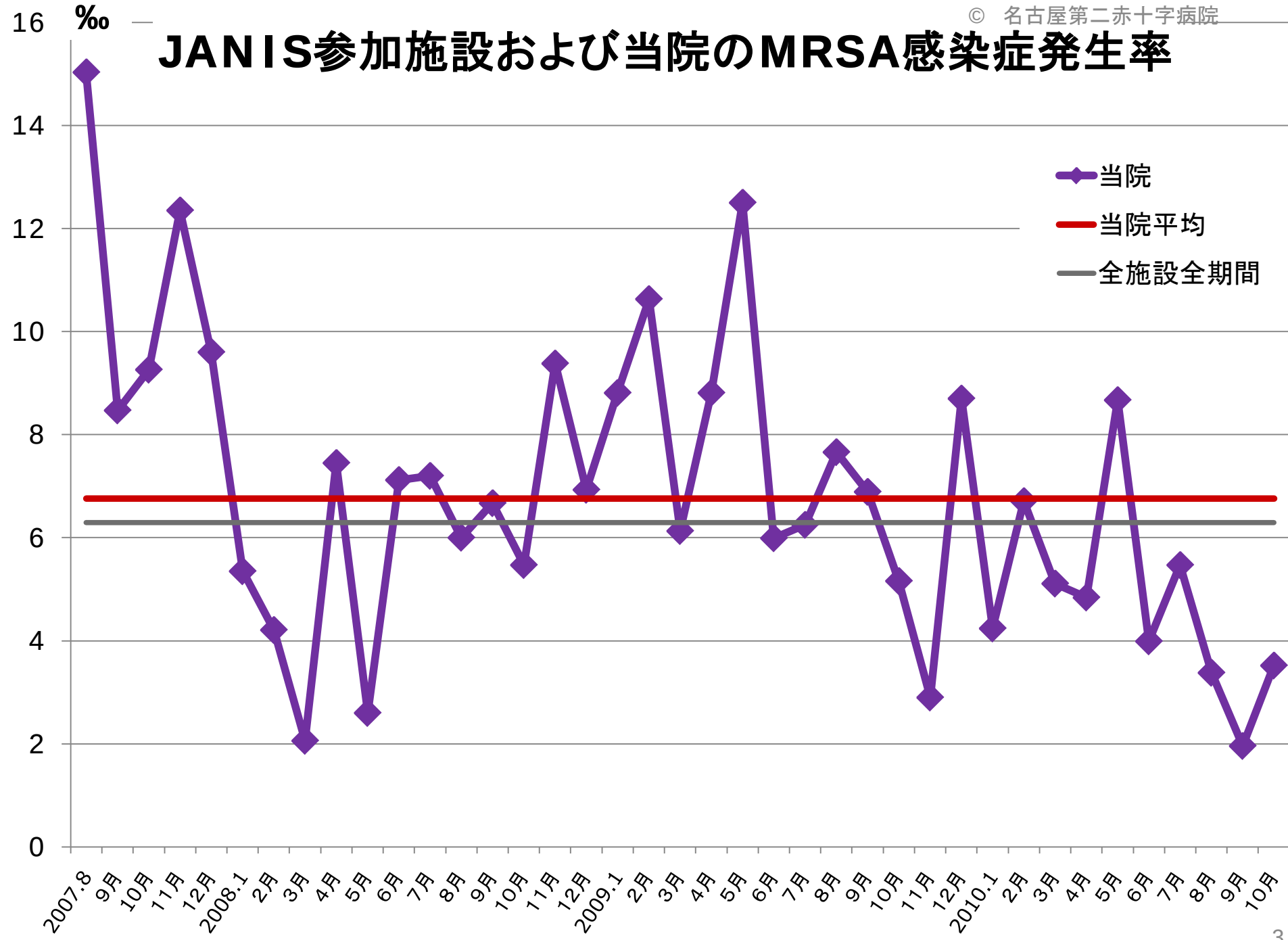


背景と目的

- 当院では2007年8月より、JANIS院内感染サーベイランス事業に参加している
- 当院のMRSA感染者率は、JANIS参加全施設の中で特に多いとは言えない
- しかし、NICUにおいて、時に、アウトブレイクを思わせる感染数を見ることがある
- 2010年7月～10月にもアウトブレイクを思わせる、MRSA発生が見られた
- 今後のNICUにおける感染対策に役立てるため、この時期にNICUに入室しており、MRSAが検出された患児12名を検討した



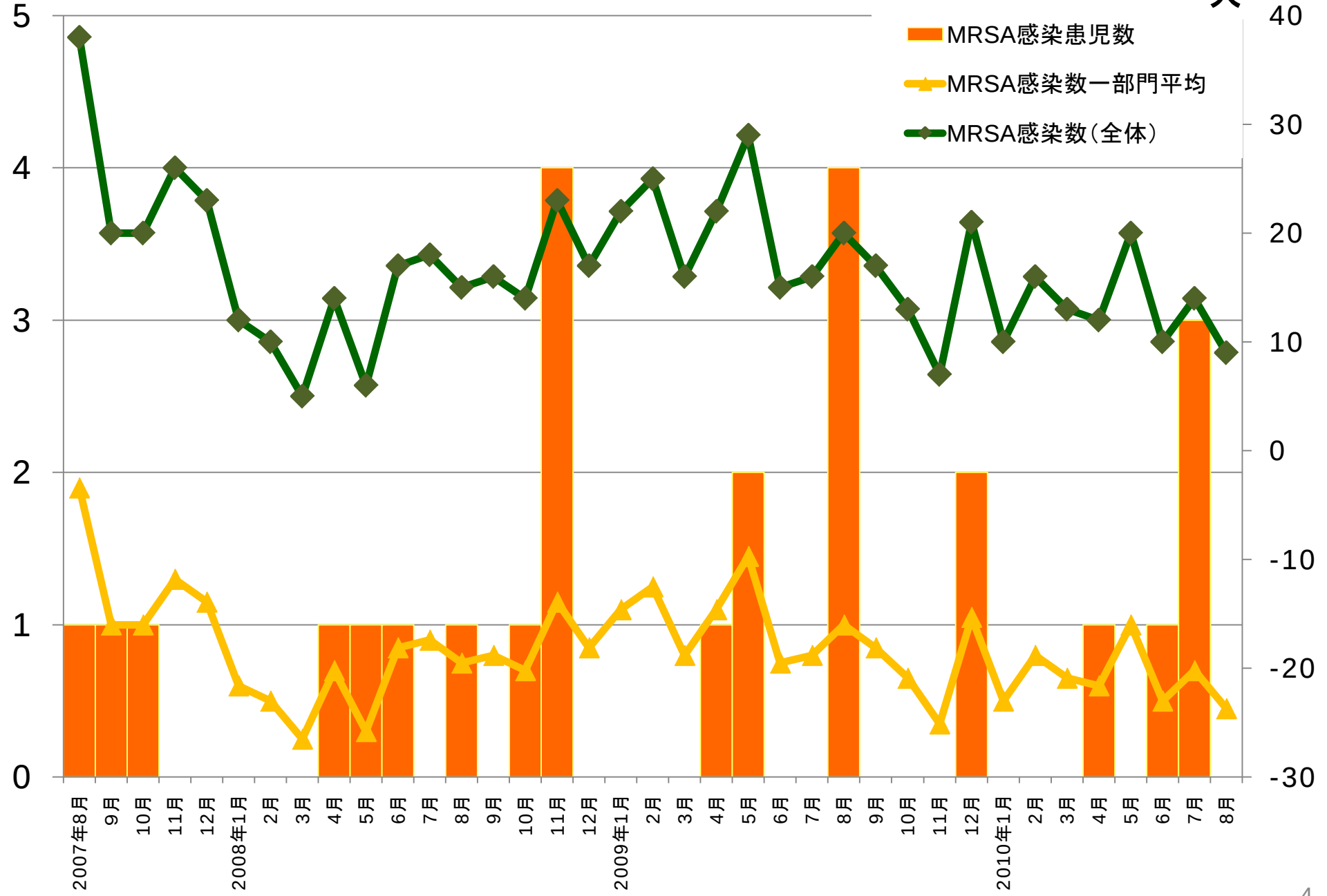
JANIS参加施設および当院のMRSA感染症発生率



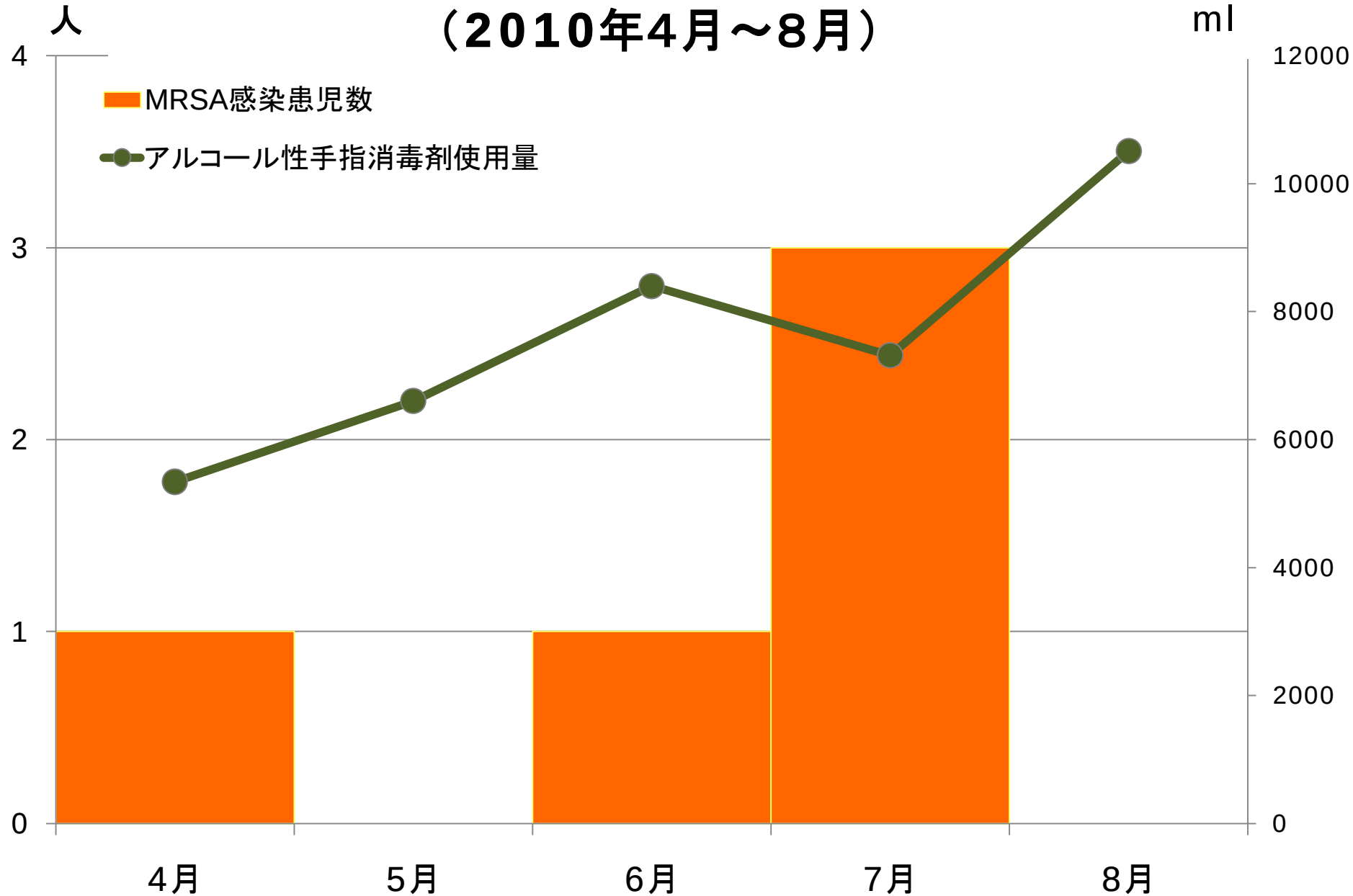
MRSA感染数(2007年8月~2010年8月)

人

人

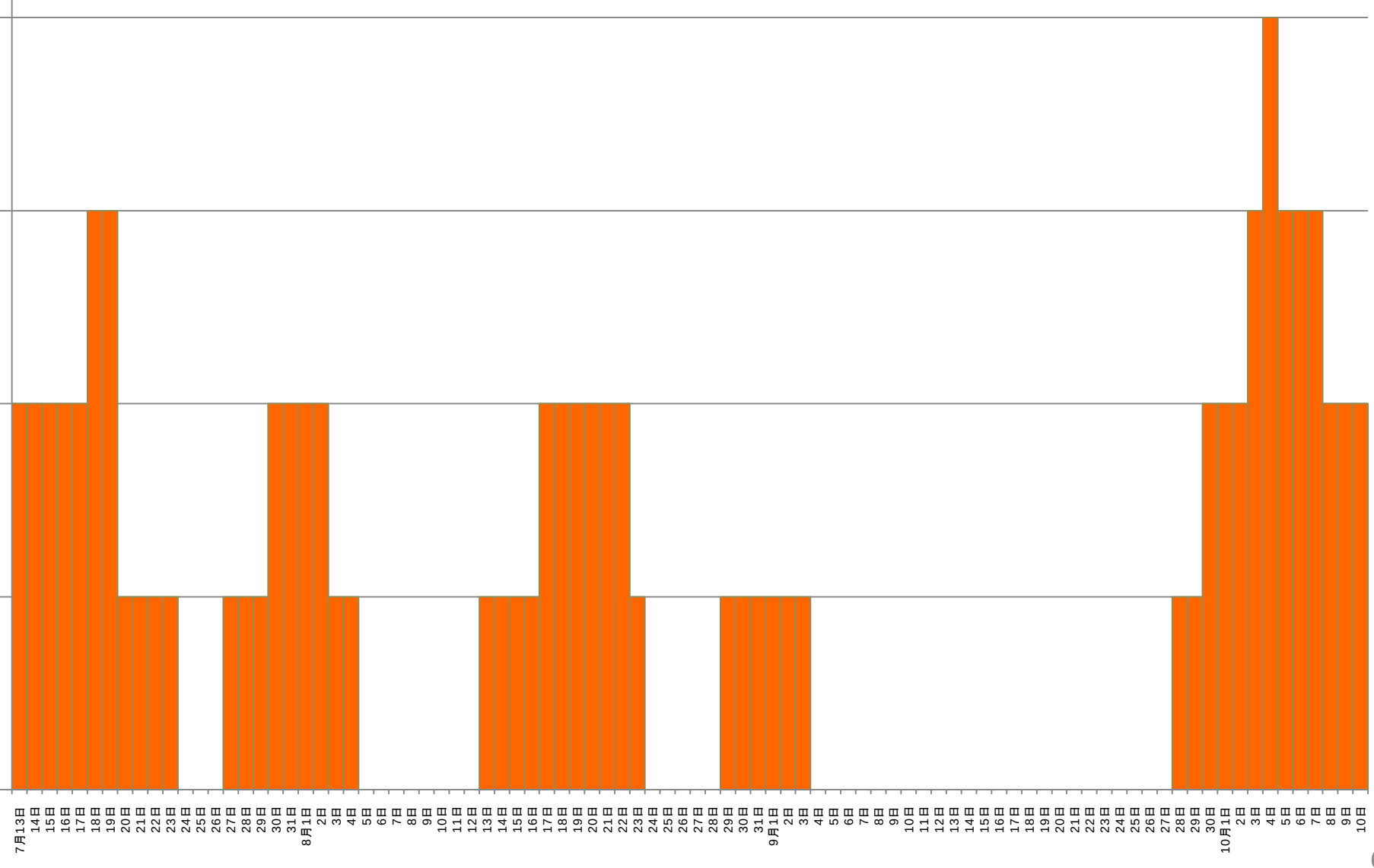


MRSA感染患児数とアルコール性手指消毒剤使用量 (2010年4月～8月)



人

日にち別MRSA検出患児推移 (2010年7月13日～10月10日)



患児別MRSA検出状況

(2010年7月13日～10月10日)

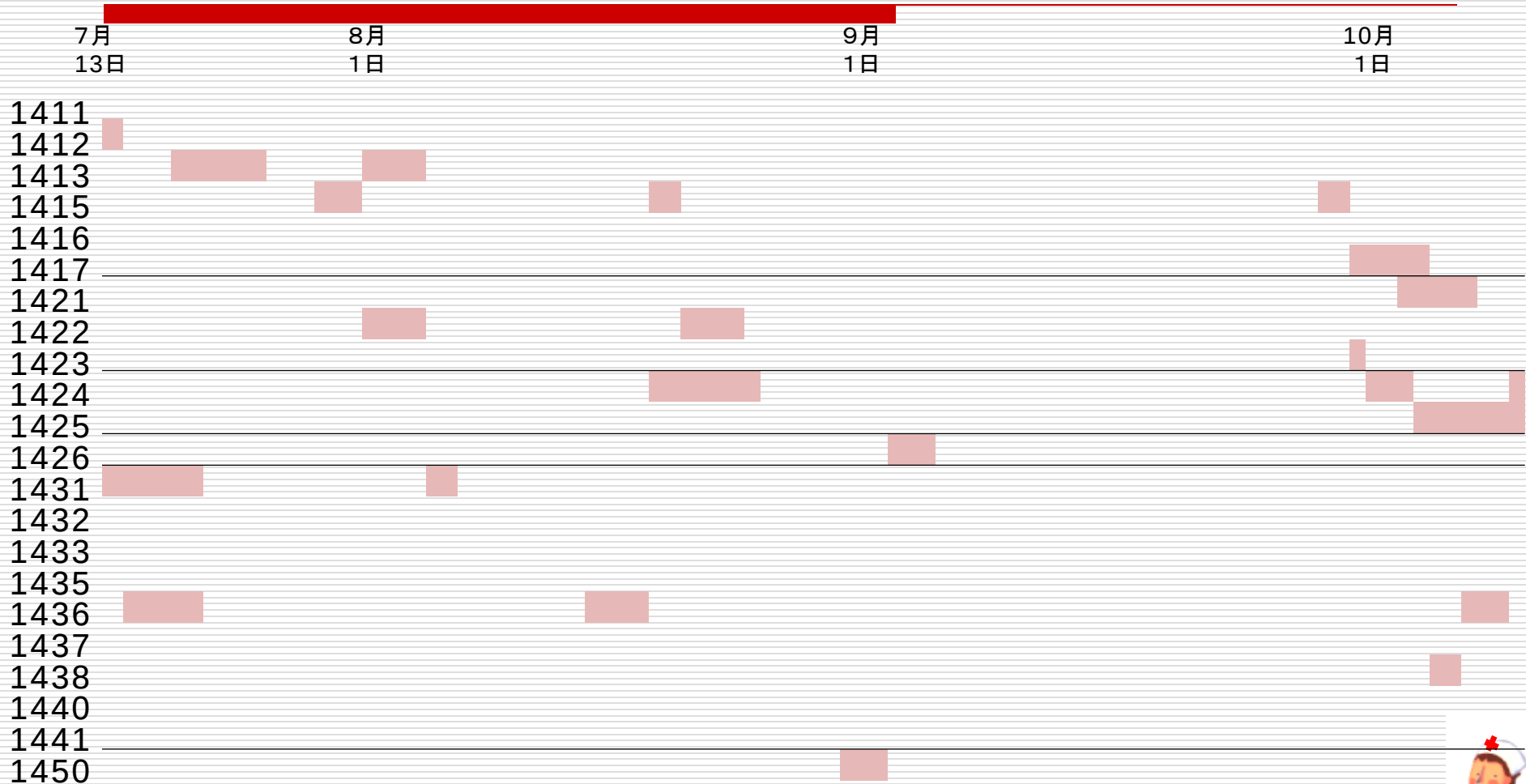
	7月 13日	8月 1日	9月 1日	10月 1日
A	36	24	22 25	
B	36	21	50 23	50
C	22			
D	13	31	24 25	26 50 35 50
E	22	25	50 21	50 21 50
F	23	22	50 22	23 21 50
G	22	12	22 12	23 21 25 21
H	15	22	25	21 26 50
I			50 26	
J			17	23
K			16	23 24 22
L			12	37 38 36





部屋別MRSA検出状況

(2010年7月13日～10月10日)



おむつ交換手順

おむつ交換



廃棄

おしぼり



クベースカバーを開ける



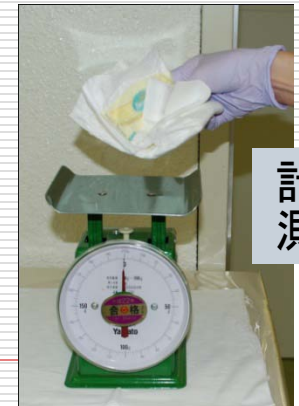
おむつを準備する



おむつを出す



計測



クベースの扉を開ける



手袋装着



流水手洗い



アルコール手指消毒



NICUにおける感染対策上の課題

- 手洗い場が離れている
- アルコール性手指消毒剤はクベースの近くに置かれており、手指衛生上は有効であるが、周囲環境を整えないと、かえって汚染を拡大させる危険がある
- 同じ手袋でクベースの外も中も触る
- 患児の体躯は小さいので、清潔部分と不潔部分が近い
- 清拭など他のケアが発生した場合、おしぼりをとりに少し離れたところまで行く必要がある



改善策提示

- アルコール性手指消毒剤を多用する
- アルコール性手指消毒剤の周辺を整え、消毒剤による汚染を防ぐ
- 準備を十分に行い、無駄な動線が交差することを避ける
 - 環境クロス・おしぼり等、ディスポ製品を有効に利用する
 - 手袋交換、手指衛生のタイミングをはずさない
- ケア・処置により、簡単に患児は汚染されるため、手袋交換・手指衛生を怠らない
- 一連の流れの中で、ケア・処置を行う

